



写真 魚道を越えていくシロザケ（利根大堰）



写真 ブータンの桜（10月）

# かわはく No.48

## CONTENTS

平成25年度特別展開催報告「和船大図鑑～荒川をつなぐ舟・ひと・モノ～」	2
スロープ展示案内「砂漠の中の水」	3
秋期企画展開催報告「荒川の水のゆくえ～埼玉の水と産業～」	4
平成25年度1月企画展案内「魚のみち」	5
かわはく出張授業の報告	6
イベント報告：かわサタ・あそぼうまなぼうより	7
館長のつぶやき「ブータンの話その2」	7



## 平成25年度特別展 開催報告

# 『和船大図鑑 ～荒川をつなぐ舟・ひと・モノ～』

2013年7月13日（土）から9月1日（日）まで、平成25年度特別展「和船大図鑑～荒川をつなぐ舟・ひと・モノ～」を開催しました。昨年の特別展同様、展示はメイン会場となる第二展示室のほか、にりバーホールでも行い、さらに「荒川と船の風景」と題した特別展のサテライト展示を、6月4日（火）～9月29日（日）の期間、第一展示室のスロープ展示として開催しました。

今年度の特別展のテーマは、展示タイトルを見てもわかるように「和船」でした。その中でも特に江戸時代（享和2年）に川船奉行所が編纂した『船艦』に登場する、各用途に合わせ、当時の人々（船大工）の技術・工夫・需要が結晶されたともいえる様々な和船の紹介が、展示全体の大きなウェイトを占めました。

これら和船の紹介は木製の模型を用いて行い、荒川や新河岸川、利根川の舟運で活躍した高瀬船ひらたや艀船等のりふねの荷船、江戸の町で活躍した屋形船ちやうや猪牙船等のらふねを展示しました。

また和船にまつわる文化は、当然「船」本体に限ったものではなく、本展示では和船にまつわる様々な文化の紹介も行いました。

和船を実際に作った船大工の紹介として、江戸川沿いで使用されていた船大工道具の展示、そしてかわはくの地元である寄居町で撮影された、船大工の技術と和船の造船工程を紹介するビデオの上映を行いました。

船乗りの信仰の紹介としては、大杉囃子の演奏に使用される楽器や、大杉神社（ふじみ野市）に奉納された額や掛軸を展示し、さらに埼玉県内のかつて舟運で栄えた河川沿いの神社に奉納された「船絵馬」を展示しました。

そして、展示物の中でも一番の人気だったのが、中山幸雄氏が製作した「和船細工」（写真①）でした。中山氏は船大工への聞き取り調査等も行った上で、70分の1スケールの精巧な和船模型を製作なさっており、本展示ではコレクションの一部をお借りし、展示させていただきました。



写真① 展示室の様子

一番人気だった、中山幸雄氏の和船細工。細部まで作られた船、一艘、一艘が本当にステキでした。

また関連イベントとして、中山氏の和船細工コレクションを一堂に展示する「和船細工ジオラマ解説」も7月19日（金）～21日（日）にかけて行い、こちらでもイベント会場であるふれあいホールからは常に感嘆の声が上がっていました。

他にも関連イベントとして、講演のテーマを展示物と絡めた講演会や、船絵馬づくり、かわはく夏祭りの開催に合わせて、柳生大杉囃子保存会の皆様に大杉囃子の実演をしていただきました（写真②）。



写真② 「大杉囃子の実演」実施風景

真夏の炎天下の下、演奏していただきました。ありがとうございました。

他にも、江東区の横十間川親水公園までお出かけし、和船友の会の皆様に御協力いただき、和船の試乗体験も行いました（写真③）。いずれの関





連イベントにも多くの方に御参加いただきました。

埼玉県には多くの河川が流れており、昔から人々は川とともに暮らしてきました。その中で「船」が担ってきた役割は大きく、実は今でも私達の生活と大きく関係しています。今回の展示が改めて、私達の生活と川との関係を見直すいい機会になったのではないかと考えています。

最後になりますが、本特別展の開催に御協力いただいた皆様、本当にありがとうございました。

(研究交流部 羽田武朗)



写真③「和船体験」実施風景  
がんばれ、ちびっこ船頭さん！！

## スロープ展示案内

# 砂漠の中の水

会期：平成26年2月4日(火)～

年降水量がおよそ250mmを下回り天水農業ができる限界以下の、砂漠と呼ばれる地域にも昔から人々は住み、暮らしています。水がなければ人は暮らしていけませんが、人々はどのように暮らしているのでしょうか。砂漠において水を得る方法は①雨や霧などの天水、②泉（オアシスや季節河川など）、③地下水（井戸）があります。人々は水を得られる場所や時期を知り、うまく利用しているのです。

世界の砂漠にはアフリカ大陸のサハラ砂漠やナミブ砂漠、ユーラシア大陸のタクラマカン砂漠、南アメリカ大陸のアタカマ砂漠などがあります。このような砂漠地域で、人々がいかに水の恵みを利用し暮らしているかを主に写真を通して紹介します。

また砂丘と砂漠の違いや近年問題となっている砂漠化についてもふれる予定です。

この展示を通して日本とは全く異なる環境で暮らす人々の生活について知り、水の恵みの大切さを再認識していただければと思います。

(研究交流部 森 圭子)



砂漠の中のナツメヤシ農園に水を送っている(チュニジア)



生活用水を得るために素掘りの浅井戸から水を汲む(ブルキナファソ)



## 秋期企画展 開催報告

# 「荒川の水のゆくえ ～埼玉の水と産業～」

2013年9月21日（土）～11月24日（日）の期間、企画展「荒川の水のゆくえ～埼玉の水と産業～」を開催しました。

埼玉県内では、荒川や利根川の豊かな水が、昔からさまざまに利用されてきました。この企画展では埼玉県内の水、特に「荒川流域の水がどのようなことに使われているのか」ということに焦点を当て、湧水や井戸、上水道から下水道まで、水のゆくえを追いながら、私たちの暮らしを支える水のことや、あまり知られていない水の利用について紹介しました。

展示は3章立てで構成しました。

第1章『荒川流域の水』では、北関東地方の7万分の1の地図に、荒川流域の範囲や、本企画展で紹介した湧水等の位置を書き込み展示。また、荒川流域の名水とよばれる水や、今も生活に使用されている湧水や井戸について、取材結果を基に写真等で紹介しました。かわはくの近くの湧水については、オリジナルでマップを作成。「地図を持ってでかけよう」とし、来館者の方が地図を持ち帰ることができるように、印刷した地図を用意しました。

第2章『水道の水』では、上下水道について展示を行いました。まず、江戸時代と明治時代の水道管、明治時代と昭和30年代の水道蛇口等の展示を通して、水道の歴史を紹介。浄水場での水の浄化のしくみについては、さいたま市にある大久保浄水場の急速濾過池で使用されている砂利と同

じ砂利を使い、同じ層厚で、ろ過装置の模型を複製し展示しました。また、埼玉の県営水道で使われている水道管の実物サイズのイラストと背比べをできるコーナーも設けました。この展示物は、今年度の当館博物館実習生とともに作成しました。

蛇口をひねると出てくる水が、一体どこからやってきて、どこへ行くのかということについては、取材結果を基に、寄居駅周辺で水を使用した場合を例として、オリジナルでイラストを描きおこし、紹介しました。

下水の処理については、実物のマンホールの展示や、活性汚泥中の微生物の顕微鏡映像の上映等を通して紹介しました。

第3章『産業と水』では、埼玉県の農業、主に田んぼと水の関係、食品工場と水の関係、井戸水を使って作られる地酒や豆腐について、標本や製品の模型等とともに紹介しました。

埼玉県の伝統工芸と水との関わりとして「秩父銘仙<sup>めいせん</sup>」の着物、「熊谷染」の着物や日傘等の小物類、「小川和紙」を使用した凧や和紙小物等を展示、紹介しました。また、細川紙とそれ以外の紙についての違いを、顕微鏡を使って観察できるコーナーも設けました。また、「ものを作るにはどれだけの水が必要？」ということを手ズオン形式で紹介するコーナーは、小学生に大人気でした。

関連イベントは2回行いました。「大人の社会科学見学」として、展示に関連する場所や施設を歩



熊谷染の着物(左)、秩父銘仙の着物(中)と小川和紙の凧(右上)



ハンズオンコーナー(中央)と水道管のイラスト(左奥)





いて訪ねる現地見学会です。1回目は『秩父の水と産業』と題し、この展示でも紹介した「妙見七ツ井戸」等の湧水、「ちちぶ銘仙館」、造り酒屋の「武甲酒造」等を巡りました。2回目は『浄水施設等見学会』と題し、さいたま市にある大久保浄水場を見学。見学後は、かわはく流のウォーキングとして、浄水場から北浦和駅まで歩く途中に見ることができる地形や、昔の川の跡等に注目し、旧版地形図を片手に参加者のみなさまに解説をしながら歩きました。

また、この企画展では、新たな試みとして、館外配布チラシの裏に、チラシ持参での来館特典と

して、高度浄水処理100%の水道水ペットボトル「彩の水だより」(埼玉県企業局提供)の引換券をつけました。

展示やイベントに足を運んでくださったみなさま、そして展示にご協力いただいたみなさま、ありがとうございました。

(研究交流部 杉内由佳)



大久保浄水場屋上で職員の説明を受けているところ

## 平成25年度1月企画展案内

### 「魚のみち」

2014年1月25日～2月23日に開催を予定している企画展「魚のみち」について紹介します。

大きな河川などにつくられているダムや堰などは、治水、発電、生活・農業・工業用水の供給など人々の生活に重要な役割をはたしています。しかしそれらは、便利になった現代の生活とは裏腹に、魚など川の生きものの往来を妨げ、個体数の減少や生態系への影響などさまざまな問題がおきています。その解決策のひとつとして、生きものが行き来できるように「魚道」が全国各地の河川で設置されています。本企画展では各地の実例を挙げ、様々なタイプ、役割、効果、新たな試み、問題点、課題などについてパネルで紹介합니다。

埼玉県を代表する魚道には行田市の利根大堰(利根川)が挙げられます。利根川は毎年多くのシロザケが遡上し、利根大堰の魚道を越えて、群馬県高崎市付近を中心に自然産卵が確認されています。展示では利根大堰の魚道を越えるシロザケの様子を大型映像で紹介します。

また、魚道の模型や、魚道を利用するシロザケ、アユ、オイカワなどの魚類、エビ・カニなど生きものを標本で展示します。

さいごに、かわはく近隣の荒川でも魚道が設置されています。遡上するおもな魚はアユですが、まだまだ課題を多く残しています。その現状などを紹介します。

なお、本展示は(独)土木研究所自然共生研究

センター、東京学芸大学環境教育実践施設などが開発した、全国各地を巡回する展示システムの基、関係各機関との連携によって、当館独自のアレンジを加えた展示として開催します。

(研究交流部 藤田宏之)



利根大堰魚道(行田市・利根川)



明戸サイフォン魚道(深谷市・荒川)



## かわはく出張授業の報告

川の博物館では授業のお手伝いの一環として来館した学校対応のみならず出張授業も行っております。今年もすでにたくさんの学校の授業のお手伝い行っています。去年の対応をふりかえってみました。

2012年度の学校利用団体数は74団体（同日対応などの重複込）でした。そのうち出張対応したものは24あります。全体の3分の1が出張授業でした。出張地域の特徴もあります。ときがわ町が一番多く10回ついで東松山市6回となっています。季節的な特徴は10月と11月に集中して多く24/16回となっています。10月11月の内容のほとんどは5年生で学習する「流れる水の働き」や4年生の「総合的な学習の時間」でした。全体的にどの学校も授業の進行が同じようなのだと思います。特にときがわ町では1～6年まで全学年の授業にかかわることができました。

普段とはちょっと違った授業をしてみませんか？体験授業の依頼待っています。

それではかわはく体験学習の一例を紹介します。

### 1. かわはく体験学習

（約20～30名を対象としたプログラムに必要な時間を表示しています）

- ・河原の土壌と帰化植物調べ（30～60分）
- ・水生生物による水質判定（40～90分）
- ・河原の石を調べよう（30～60分）
- ・川と環境～水質を調べよう（30～45分）

### 2. セミオーダープログラム

川、水、環境、人々の暮らしに関する既存のプログラムに学校周辺の地域の情報を加味し、体験学習や出張授業を行います。

### 3. フルオーダープログラム

川や水に関するプログラムを全く新規で作ります。例として、「川で見られる鳥について」「川と植物と環境」「川と土壌」「川と昔のお城」など学芸員の専門分野を生かし学校の先生と協議を重ねてプログラムを作成します。◎博物館の周辺には他にも生きものなど季節の教材がたくさんあります。地域の教材を活かした学習にも相談に応じます。実験室の利用、教材の貸し出しなども行っています。授業の内容相談なども受け付けています。※内容によっては材料費が発生する場合もあ

ります。

※学芸員の専門分野に関してはHPのスタッフ紹介をご覧ください。

HPアドレス：<http://www.river-museum.jp/>  
（研究交流部 石井克彦）



ときがわ町立玉川小学校「総合的な学習の時間川の生き物」



ときがわ町立明覚小学校「冬越しの話」



東松山市立松山第二小学校「流れる水の働き」



埼玉県立東松山特別支援学校嵐山学園内教室「大地のつくり」





# イベント報告 かわサタ・あとぼうまなぼうより

## かわサタ自然教室「葉脈標本をつくろう」

9月6日にヒイラギモクセイの葉を使って葉脈標本を作りました。葉は水酸化ナトリウム水溶液で煮て下準備をしておきました。葉を水洗いして葉肉を落とすと、目に見える葉脈以外に葉っぱ全体に細かな葉脈が広がっているのがわかりました。観察したあとは、食紅で染めてカードにしました。

(研究交流部 奥村紘美)



## あとぼうまなぼう「押し葉でカードづくり」

10月6日に「押し葉でカードづくり」を行いました。素材は、秋にちなんだ4種類の植物を地図を頼りにかわはくの中から探してきてもらいました。ちょうど花の時期であるキンモクセイ、紅葉し始めたドウダンツツジとナツツバキ、名前に秋が入っているアキニレです。他にイロハモミジを取ってきた方も多くいらっしゃいました。



電子レンジで乾燥させた葉を、配置を工夫したりキンモクセイの花と一緒に挟み込んだり、みなさん年配の方からお子さんまで思い思いのカード作りを楽しんでいただけたようです。

(研究交流部 奥村紘美)

## 館長のつぶやき

### ブータンの話その2

ブータンで、日本の常識が通用しないことがあります。さくらが春ではなく秋に咲くことです(表紙写真参照)。秋にブータンを訪れると、2000m付近の濃緑色の山肌に、ピンクの花が咲き誇っています。日本の新緑色の山肌のヤマザクラの華やかさに引けを取らない咲きっぷりです。ただ木の下でさくらを堪能しようと思っても、斜面が険しくなかなか近づけず、遠くからながめるだけです。

日本では秋から冬に咲く冬桜という品種があり、文字通り冬12月ごろに咲きます。マメザクラとヤマザクラの雑種と考えられています。ただ春のさくらと異なり、白っぽい小ぶりの花で、華やかさには欠けます。群馬県藤岡市の桜山公園が有名だそうです。また、秋にソメイヨシノなどが花を咲かせてマスコミをにぎやかさせます。「狂い咲き」といわれる現象です。台風や虫害で葉をなくし、ホルモンのバランスが崩れて咲くらしいのです。騒ぐわりには、春の華やかさにはおよびません。

さくらの開花は、気温の上昇に関係していることはよく知られています。花を待ちわびると春を待ち望む期待が一緒になって、暖かさが増してくるのを感じられる桜前線という言葉に心がおどります。

ブータンのさくら(ヒマラヤザクラ)は、遺伝的には日本のさくらのご先祖に当たるようです。ではなぜ秋咲く花が春に咲くようになったのでしょうか?ブータンのさくらは亜熱帯域にあり、一年中穏やかな暖かい気候です。その桜が中国、日本と生育を拡大して、または気候が寒くなって、残されていくにしたがい、寒い冬を乗り越えるために、冬に葉を落とし活動を止める性質を得て、暖かくなった春に花を咲かせ子孫を残すようになったのではないかと考えられます。本当かどうかはわかりませんが、どのくらいの年月でこのように変化してきたか考えると、植物の進化に夢が広がってきます。

でも、さくらは秋咲くより、春爛漫の時期に咲いて初めて日本人の心になじむのかもしれませんが。

(館長 平山良治)



# かわはくで学ぼう!!

## イベント情報コーナー

### 12月

12/21/土~1/13/月・祝

連携展  
「平成25年度荒川図画コンクール展」

8/日 かわはくであそぼう・まなぼう  
「クリスマスかざりづくり」

時間：13：30～15：30  
費用：無料  
内容：クリスマスかざりをつくります。

14/土 かわサタ自然教室「光る!泥だんごづくり」

時間：13：30～15：30  
費用：800円（材料費）  
定員：20名 ☎  
内容：ピカピカと光る泥（土）のだんごをこねるところから仕上げの作業まで行います。

22/日・23/月・祝

かわはくクリスマスファンタジー  
時間：夕暮れ～閉館まで  
内容：かわはくでささやかなイルミネーションを楽しめます。

### 1月

1/25/土~2/23/日

1月企画展「魚のみち」

5/日 かわはくであそぼう・まなぼう  
「お正月遊び」

時間：①10：00～12：00 ②13：00～15：00  
費用：無料  
内容：コマまわしやカルタなど伝統あそびを体験できます。

9/木 荒川ゼミナール・青空教室「荒川河口を見る」

時間：12：30～16：00（予定）  
費用：100円（保険料）  
定員：30名（申込順） ☎  
内容：荒川河口を巡視船に乗って見学します。JR赤羽駅集合。

25/土 かわサタ自然教室  
「かわはくでバードウォッチング」

時間：13：30～15：30  
費用：100円（保険料）  
定員：25人（申込順） ☎  
内容：かわはく周辺で野鳥を観察します。

### 2月

9/日

かわはくであそぼう・まなぼう  
「おひなさまつくり」  
時間：13：30～15：30  
費用：無料  
内容：ひな祭りに合わせて紙でおひな様作りに挑戦します。

15/土 かわサタ自然教室「火山のひみつ 実験教室」

時間：13：30～15：30  
費用：200円（材料費）  
定員：20人（申込順） ☎  
内容：食品を使った火山の実験と、顕微鏡を使った火山灰の観察を行います。



### 3月

3/15/土~5/6/火・祝

平成25年度春期企画展  
「荒川流域のいきもの絵画展」

22/土 かわサタ自然教室  
「かえるの卵を観察しよう」

時間：13：30～15：30  
費用：100円（保険料）  
定員：20名（申込順） ☎  
内容：早春に産卵するカエルの卵を観察します。

23/日 かわはく春祭り

時間：10：00～16：00  
内容：各種子供向けイベントを開催予定です。

23/日 かわはくであそぼう・まなぼう「科学あそび」

時間：13：30～15：30  
費用：無料  
内容：液体窒素を使った実験のデモンストレーション見学や、静電気あそびを体験できます。

ホームページでも紹介しています!

<http://www.river-museum.jp/>

【お願い】①行事は都合により変更になることもあります。ご了承下さい。②☎印のついた行事は事前申込みが必要です。開催日の1ヶ月前より電話またはFAX、Eメールでお申し込みください。費用に「保険料」が含まれるイベントの申込締切日は、各イベントの開催日の4日前までです。③定員になりしだい締め切ります。④川の情報もお寄せ下さい。

編集・発行

埼玉県立川の博物館

〒369-1217 埼玉県大里郡寄居町大字小園39番地  
TEL/048-581-8739(研究交流部) FAX/048-581-7332  
Eメール/web-master@river-museum.jp/



彩の国 埼玉県  
2013年11月19日発行

